

協会の活動

発行: 一般社団法人栃木県老人保健施設協会広報委員会

令和2年度 研修委員会職員研修会

- 期日：令和3年3月4日(木)
Zoomによるオンライン研修
- 内容：医療法人 あづま会 大井戸診療所
大澤 誠 先生
「介護の現場で悩むチームケアに必要な
老年医学の考え方」

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、研修委員会によるオンライン研修会が株式会社ツムラ様の共催をいただき、県内の老人保健施設のうち29施設55名が参加し開催されました。冒頭、江田研修委員長の挨拶があり、群馬県伊勢崎市から、大澤誠先生による講演が行われました。

大澤先生は、診療所のほか、グループホームを運営されているとのことで、臨床を踏まえた、とても有意義な講演でした。

85歳以上では、平均8個以上の老年症状、兆候を有するとされ、急性疾患（めまい、意識障害など）、慢性疾患（認知障害、視力低下など）、介護（うつ、ADL低下、尿失禁など）の例をあげられた老年症候群のお話から始まりました。その後、Palmoreのエイジングクイズを、視聴している施設職員に向けて声掛けされ、各自が問題に取り組みました。

介護老人保健施設における介護職の役割について、さまざまな場面を一番観察しているのは介護職であり、陣頭指揮をとるのは介護職がベストで、介護者が果たす役割は大きいとお話があり、介護職員により重きを置くべきだ、そのようにあるのが望ましいと感じました。また、嚥下障害がある方については、介護職が口腔ケア、食事道具の工夫を行っていますが、言語聴覚療法士が嚥下アセスメントを行い、栄養士など多職種で連携を図るチームケアが重要であると話されていました。

中盤以降、骨粗しょう症、便秘、認知症などの老年期特有の症状に対して、牛車腎気丸、大建中湯、人參養榮湯など漢方薬を用いた治療について、事例をもとにわかりやすくお話があり、4月の介護保険改正を控え、認知症に重きを置いた対応が必要となる老人保健施設にとり、漢方医学が体質改善など体づくりを目的に治療していく一助になりうることを理解できました。

多職種連携で予防策を協議し対策を講じる、さまざまな知識の習得も大切であるがチームケアが一番に求められると最後にお言葉をいただき、各部署、各施設、栃木県老人保健施設協会がワンチームで今後も利用者の自立支援に向けて励んでいきたいと改めて思いました。

